（別紙様式4）

令和7年6月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
沼津情報・ビジネス専門学校	昭和58年3月22日	三上　慎太郎	〒　410-0804 （住所）　静岡県沼津市西条町17番地1 （電話）　055-961-2555
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人静岡理工科大学	昭和27年3月31日	杉浦　哲	〒　420-0857 （住所）　静岡県静岡市葵区御幸町20番地 （電話）　054-204-2490

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	高度ITビジネス科	－	平成29(2017)年度	令和 3(2021)年度

学科の目的	「IoT」「AI」といった情報技術が高度化する中、アプリ・インフラ単体の技術だけでなく、総合的に俯瞰、提案、有効活用できる人材の育成が求められている。 情報技術の核を習得後、これらを統合した形で提案できる技術者、およびITトレンドを意識できるビジネスに強い技術者の育成を目的とする。
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格　等）	4年という修業年限を活かし、産業能率大学との併修による学士取得が可能。情報系国家試験である「基本情報技術者試験」（レベル2）から「高度区分試験」（レベル4）までの 資格取得が可能なカリキュラムとなっている。また、LinuCレベル1・AWS Cloud Practitioner といった著名なベンダー資格についても取得可能。中途退学率（令和6年度）3.7%

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,930 単位時間 単位	1,830 単位時間 単位	2,100 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
80 人	82 人	0 人	0%	0 %

就職等の状況

■卒業者数（C）　：　18　人
■就職希望者数（D）　：　18　人
■就職者数（E）　：　18　人
■地元就職者数（F）　6　人
■就職率（E/D）　100　%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）　33　%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）　100　%
■進学者数　0　人
■その他

（令和　　6 年度卒業者に関する令和７年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等
（令和6年度卒業生）
NSW㈱、㈱ジェイテック、㈱アイ・エス・ビー、㈱ミライト・ワン・システムズ、日産モータースポーツ＆カスタマイズ㈱、伊豆箱根鉄道㈱、スルガ銀行㈱、他

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無
※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.numasen.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	3,930 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	480 単位時間
うち必修授業時数	3,930 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	480 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	0 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
うち必修単位数	0 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		0 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

業界の評価を得ている基本情報技術者試験の取得に必要な教育時間を基本とし、システム開発業界において必要な技術や知識の企業ニーズを取り入れて、教育課程を編成している。教育課程編成委員会の企業関係者等の意見を踏まえ、授業科目や内容及び時間数を見直し、教育課程を改善している。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業等のニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置付けを「沼津情報・ビジネス専門学校教育課程編成委員会の位置付けに係る規則」として、またその運営は「沼津情報・ビジネス専門学校　教育課程編成委員会規則」として規定しており、委員会の意見を教育課程の編成に反映できる体制となっている。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
木田　徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会　理事	令和7年2月1日～ 令和9年1月31日（2年）	①
里見　恵介	フィグニー株式会社　CEO	令和7年2月1日～ 令和9年1月31日（2年）	③
植松　甫	沼津情報・ビジネス専門学校　高度ITビジネス科　科長	令和7年2月1日～ 令和9年1月31日（2年）	ー
遠藤　有貴	沼津情報・ビジネス専門学校　高度ITビジネス科　教員	令和7年2月1日～ 令和9年1月31日（2年）	ー
寺尾　真二	沼津情報・ビジネス専門学校　高度ITビジネス科　教員	令和7年2月1日～ 令和9年1月31日（2年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回　（3月、8月）

（開催日時（実績））

第1回　令和6年3月25日（月）　10：00～12：00

第2回　令和6年8月28日（水）　10：00～12：00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

新カリキュラムでは応用情報技術者の範囲を網羅できるように教育課程を編成した。引続き、情報セキュリティマネジメント試験についても授業時間数を増やして積極的な合格を狙っていく。新技術としてはAIアルゴリズム、AWS、ブロックチェーンを取り入れ、最新の技術動向に対応できるように組立て、カリキュラムを大幅に刷新している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業で求められる業務レベルを意識した演習を行うために、予め企業担当者と本校教員とで打ち合わせを行い、演習内容を精査する。また、演習の結果を踏まえて再度検討会を実施し、教材改善・授業内容の修正を行えるようにする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

システム開発演習用の演習教材およびシラバス・教案等を企業の担当者と連携して作成する。この教材・教案にて企業の担当者により講義を行うと同時に演習を行う。演習終了時に本校教員と協議し、教材のメンテナンスや教授方法、演習時間配分等の見直しを行う。授業終了時には企業担当者による学生の評価を踏まえ、教員が成績評価・単位認定を行う。評価は個人ワークおよびグループワークの成果両面から評価する。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
企業課題Ⅰ	対面授業にて実施する。技術を習得するための講義と、習得した知識・技術を元にした実習を行う。	連携企業様をコンサルタントとし、実際の商店街様を仮想相手として学生が新規システム提案から導入までを体験する。	株式会社メトロ
組込みシステム開発演習	対面授業にて実施する。技術を習得するための講義と、習得した知識・技術を元にした実習を行う。	ETロボコン入賞の常連である企業様のアドバイスを受けながらETロボコン参加も視野に、LEGOロボットを通じた組込システムの開発・制御・メンテナンス技術を学習する。	株式会社アイズ・ソフトウェア

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「沼津情報・ビジネス専門学校　職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「教職員研修」を、企業等及び研修機関と連携し、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　AWS Cloud Security Builder　　連携企業等：AWS Academy
期間：　2025/2/21　　対象：科内教員
内容　AWSAcademyコースで準備されている専門的な技術を強化するプロジェクト体験

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　ファシリテーションスキル習得　　連携企業等：（株)ウチダ人材センタ
期間：　２０２５年１月６日（月）　　対象：全教員
内容　①ファシリテーションとは②ファシリテーターの役割③ファシリテーターの基本スキル④効果的なコミュニケーション

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　Pythonプログラミング入門　　連携企業等：ベネッセ・コーポレーション
期間：　2025年9月30日 迄 で 随時　　対象：科内教員
内容　生成AI，機械学習、データサイエンス、ウェブ制作に役立つプログラミングの基礎知識を習得する。

研修名：　AWS：はじめてのAmazon Web ServicesAWS　　連携企業等：ベネッセ・コーポレーション
期間：　2025年12月31日 迄 で 随時　　対象：科内教員
内容　AWSの概要を理解した上で基礎的な構築技術を習得する。

研修名：　C#による非同期プログラミング　　連携企業等：ベネッセ・コーポレーション
期間：　2025年12月31日 迄 で 随時　　対象：科内教員
内容　Thread，ThreadPoolからTask，async await までを技術習得する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　新任教員研修　　連携企業等：静岡県職業教育振興協会
期間：　2025/8/1～2025/8/8　　対象：科内新任教員
内容　新規に着任する専門学校教員に対する指導力および資質向上の研修プログラム。

研修名：　ロジカルチームビルディング研修　　連携企業等：株式会社IKUSA
期間：　2025年8月26日（火）　　対象：全教員
内容　①論理的思考力の向上②他者に分かりやすく伝えるためのスキル③多様な視点の統合力

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として運営している。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	基準(1)　教育理念・目標
（2）学校運営	基準(7)　教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
（3）教育活動	基準(2)　教育活動
（4）学修成果	基準(3)　教育成果
（5）学生支援	基準(4)　学生支援
（6）教育環境	基準(5)　教育環境
（7）学生の受入れ募集	基準(6)　学生の募集と受け入れ
（8）財務	基準(7)　教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
（9）法令等の遵守	基準(7)　教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	基準(8)　社会貢献・地域貢献、国際交流
（11）国際交流	基準(8)　社会貢献・地域貢献、国際交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会後に意見を取り纏め、学校としての対応を決定。1年間を通して改善に努め、次回の委員会時に改善を報告する。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
石塚　久美子	公益社団法人　沼津法人会　女性部会　副部会長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	地方法人団体関係者
加藤　正樹	静岡県立三島長陵高校　教諭	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	地域住民
廣住　和良	株式会社ディスタンス・インターナショナル　代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
曾根　輝夫	ランアンドケントス株式会社　代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
大澤　幸男	株式会社KTSオペレーション沼津リバーサイドホテル 総務人事マネージャ	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
鶴谷　主一	学校法人松濤学園　原町幼稚園　理事長・園長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
土井　宣博	株式会社　雅心苑　代表取締役　社長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
塩田　美佐代	医療法人社団　真養会　看護・介護統括局長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
齋藤　悦生	株式会社NEXUS　代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	企業等委員
海野　秀伸	協和警備保障株式会社　静岡営業所　業務課管制長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	同窓会
堤　拓也	沼津市役所　市民福祉部　健康づくり課	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日（2年）	同窓会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL：　https://www.numasen.ac.jp/public/

公表時期：　令和7年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営についての理解を求め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資するため、詳細について「学校関係者評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
（2）各学科等の教育	入学者数、学修時間数、取得可能資格、卒業者数、主な就職先
（3）教職員	教職員数、組織、研修
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
（6）学生の生活支援	カウンセリング、保護者との連携体制
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援措置
（8）学校の財務	資金収支計算書、貸借対照表
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣状況
（11）その他	その他の教育活動（附帯事業等）

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL：　https://www.numasen.ac.jp/public/

公表時期：　令和7年6月30日

授業科目等の概要

	（工業専門課程　高度ITビジネス科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コミュニケーション活動Ⅰ	入学時のオリエンテーション、学校諸行事に参加する。特に1年次においては積極的に各種活動に参加し、学生間のコミュニケーションをはかる。	1通	30	1		○		○	○	○		
2	○			コミュニケーション活動Ⅱ	防災訓練、研修といった学校行事、各種講演会など、学生相互、及び職員とのコミュニケーションを深めるとともに集団行動における個人の役割、分担を再確認する。	2通	30	1		○		○	○	○		
3	○			コミュニケーション活動Ⅲ	防災訓練、研修といった学校行事、各種講演会、場合により就職活動に関連するイベントなど、各種コミュニケーションが必要な行事に参加する。	3通	30	1		○		○	○	○		
4	○			コミュニケーション活動Ⅳ	防災訓練、研修といった学校行事、各種講演会、場合により卒業に向けた学科内準備など、各種コミュニケーションが必要な行事に参加する。	4通	30	1		○		○	○	○		
5	○			フレッシュマンセミナー	入学時に一般社会人としてのマナーや、挨拶、時間管理、清掃の大切さをグループワークを通じて体験、実践し、今後の学校生活に活かすための説明などを行う。	1前	30	1		○		○		○		
6	○			キャリア教育	社会人に必要な一般常識・知識を学ぶ。働くということ、稼ぐということはどういうことか、就職に対する早期の意識付けを行うことで今後のキャリア形成に活かす。	1後	30	1	○	○		○		○	○	
7	○			キャリアディベロップメント	キャリア教育に対する振り返りを行い、社会人・企業人として必要な問題解決力やコミュニケーション力向上方法などを学ぶ。	2後	30	1		○		○	○	○	○	○
8	○			就職活動ゼミ	就職活動に必要な心構えや企業調査・資料収集、履歴書作成、面接練習、講演拝聴、職場訪問を行うとともに、内定後のフォローアップを行う。	3前	30	1		○		○	○	○	○	○
9	○			コミュニティサービス	地域社会に愛される技術者となるため、地域社会への貢献活動、奉仕活動などを通じて、社会人基礎力を養う。	3後	30	1		○		○	○	○		
10	○			コミュニケーションスキル	相手に好印象を与える話し方のスキルを学び、相手にとってより理解しやすく、説得力のある話し方の習得を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
11	○			情報分析入門	社会人として情報を上手に活用するためのカギとなる情報分析力の考え方を理解し、その高め方を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
12	○			マネジメント入門	企業とは何か、仕組みや活動について学習する。	1後	30	2	○			○			○	
13	○			簿記Ⅰ	初めて簿記を学ぶ人を対象とし、簿記の最も基本的な骨組みを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		

14	○			ビジネスマネジメント	問題解決能力を高めるため、仕事の基本であるPDCAサイクルを習得する。	2前	30	2	○			○			○	
15	○			仕事効率化	組織の全体最適を考えた上で部分最適の追求を目指す。	2前	30	2	○			○			○	
16	○			ビジネスマナー	ビジネスパーソンにとって必要な社会常識やビジネスマナーの基本を学習する。	2前	30	2	○			○			○	
17	○			ロジカルシンキング	合理的な問題解決や相手を納得させるコミュニケーションの基本となる、論理的思考のための方法やスキルの習得を目指す。	2前	30	2	○			○			○	
18	○			課題解決手法	課題を把握し、課題解決に取り組むことができるようになることを目指す。	2前	30	2	○			○			○	
19	○			マネジメント実践Ⅰ	様々な分野の経営活動から、創業者や経営者が蓄積してきたビジネスのポイントを学び取る。	2後	30	2	○			○			○	
20	○			社会学概論	現代社会の構造と機能について、社会学の様々な観点から問い直せる力を身に着ける。	2後	30	2	○			○			○	
21	○			心理学入門	心理学的立場の基本キーワードを中心に学習し、各心理学の基礎的知識を身につける。	2後	30	2	○			○			○	
22	○			メンタルヘルス入門	心の病の具体的症状・病名について理解を深めながら、ストレスの対処方法や社会的支援について学習する。	2後	30	2	○			○			○	
23	○			マネジメント実践Ⅱ	著名な経営者の経営哲学を理解し、リーダーとしての行動指針を学習する。	3後	30	2	○			○			○	
24	○			マネジメント戦略	具体的な経営戦略の事例を通し、戦略的発想をもって実践に取り組める知識・スキルを習得する。	3前	30	2	○			○			○	
25	○			ビジネス会計	経営分析に必要な会計知識の習得を目指す。	3前	30	2	○			○		○		
26	○			プロジェクトファイナンス	ファイナンス思考の本質を理解するとともに、長期志向・未来志向で価値を高める戦略的発想を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○		
27	○			簿記Ⅱ	日商簿記検定3級の合格に必要な知識の習得をめざす。	3前	30	2	○			○		○		
28	○			マーケティング論	マーケティングの基本的な内容とその体系を学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
29	○			ヒューマンマネジメント	組織が経営目的を達成するためのワーク・ライフ・バランスや次世代リーダーの育成などについて知る。	3前	30	2	○			○			○	
30	○			監査論入門	会計監査のプロセスと監査意見等について、基礎的な技術を習得する。	3後	30	2	○			○			○	

31	○			経営管理会計	日常の仕事をイメージしやすい具体的な事例を用いながら、採算性やコスト意識を身につける。	3 後	30	2	○			○			○	
32	○			経営分析	財務分析、キャッシュフロー分析、損益分岐点分析、企業価値評価などを学習する。	3 後	30	2	○			○			○	
33	○			リスクマネジメント	現場感覚のリスクマネジメントを理解し、職場におけるリスクマネジメントの実践力を養う。	4 前	30	2	○			○		○		
34	○			ビジネス倫理	ビジネスパーソンとしての正しい行動とはどのようなものかを考え、自らの倫理観を確立する。	4 前	30	2	○			○		○		
35	○			ICT利用技術	自身が使うパソコンの管理やメンテナンスができることを目標とし、PCの機器構成やWindowsの基本的操作等を学ぶ。またWordによる基礎的な文書作成スキルを習得する。	1 前	30	2	○	○		○		○		
36	○			プレゼンテーション	プレゼンテーション技術を学び、今後様々な場面で必要となる人前で説明する力を養う。PowerPointを使用しながらスライド制作および発表の訓練を行う。	1 後	30	1		○		○		○		
37	○			表計算利用技術	Excelの基礎を学び、Microsoft認定資格であるMOS・Excelの合格を目指す。授業終了時にはMOSを受験する。	1 後	30	1		○		○			○	
38	○			コンピュータ概論	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「コンピュータ概論」および基礎理論分野を学ぶ。問題解決のための最適な手法や数値を導き出す知識を習得する。	1 前	30	2	○			○		○		
39	○			ソフトウェア	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「ソフトウェア」を学ぶ。ソフトウェア体系、プログラム言語、言語プロセッサ、OSなどの基礎知識を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
40	○			ハードウェア	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「コンピュータシステム」を学ぶ。コンピュータの主記憶、補助記憶、入出力装置といった各装置を学習する。	1 通	60	4	○			○			○	
41	○			アルゴリズム	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「アルゴリズム」の分野を学ぶ。流れ図、変数の代入、比較、繰返し、配列、文字列処理、探索、整列を学習する。	1 通	60	4	○			○		○		
42	○			システム開発基礎	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「開発技術」を学ぶ。情報システム戦略、システム開発技術、ソフトウェア開発技術等、開発手法について学習する。	1 前	30	2	○			○		○		
43	○			データベース基礎	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「データベース」を学ぶ。データベースの種類、特徴、データベースモデル、3層スキーマ等の基礎知識を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
44	○			IT戦略とマネジメント	経済産業省基本情報技術者の「マネジメント」「ストラテジ」を学ぶ。経営戦略、情報システム戦略、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントについて学ぶ。	1 通	60	2	○			○			○	
45	○			ネットワーク基礎	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「ネットワーク」を学ぶ。データ送受信の基本、データ通信の基本、各種装置の機能等、通信の基本概念を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
46	○			情報セキュリティ基礎	経済産業省基本情報技術者の「テクノロジ」→「セキュリティ」を学ぶ。情報セキュリティの概念や、各種情報セキュリティ技術、管理の仕方を習得する。	1 前	30	2	○			○			○	

47	○			情報セキュリティマネジメント	これまでに学習した情報セキュリティ分野を総合的に復習する。国家試験情報セキュリティマネジメント取得を目標とし、資格取得に必要な知識を演習や座学で学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
48	○			企業インシデント総論	実際に発生したセキュリティインシデントや障害などを想定したグループ演習を行い、エンジニアがどのような観点で物事を考え、作業を進めるかを学ぶ。	4後	30	2		○		○		○		
49	○			プログラミング入門	基本情報技術者試験・科目Bにて取り扱われる疑似言語を学び、アルゴリズムと並行してプログラムの仕組みと組み立て方を身に付ける。	1前	30	2	○			○			○	
50	○			プログラム言語Ⅰ	Java言語を使い、オブジェクト指向言語の開発に必要なクラス、インスタンス、コンストラクタ等の内容を学習する。	1後	60	2	○			○		○		
51	○			プログラム言語Ⅱ	プログラム言語Ⅰの学習内容を基にJavaプログラミング能力認定試験3級の範囲を中心とした、継承、ポリモフィズム、カプセル化、エラー処理、DB連携を学習する。	2前	60	2	○			○		○		
52	○			オブジェクト指向設計	オブジェクト指向設計時に使用されるUMLの記述方法を学ぶ。UML作成ツールであるastahを利用しオブジェクト指向を理解する。	1後	30	2	○			○			○	
53	○			Webページ制作	HTML言語を使用してホームページ作成方法を学習する。スタイルシート（CSS）による表現、JavaScriptを使用した画面の動的表現などを習得する。	2後	60	2		○		○		○		
54	○			Webアプリケーション基礎	サーバサイドプログラムを使用しサーバ側で動作する各種アプリケーションの基礎を学ぶ。Webサーバ構築後にJavaサーブレット&JSPまたはPHPなどを利用し演習を行う。	3前	60	2		○		○			○	○
55	○			Webアプリケーション応用	Webアプリケーション基礎に引続き演習を行う。特にデータベース(MySQL)やセキュリティを考慮したWebシステムの開発を中心に学習する。	3後	60	2		○		○			○	○
56	○			クラウド技術	仮想化技術や、クラウドサービスについてなどクラウドコンピューティングの基礎を学ぶ。クラウド業務に必要な技術を学習、AWS-C.C.Practitioner取得を目指す。	4後	60	2		○		○		○		
57	○			AIアルゴリズム	AI演習で理解を深めるための前段として、AIの仕組みや処理の流れについて学ぶ。進化系アルゴリズムから始め、AIアルゴリズムの源泉となるロジックを理解する。	4前	30	2		○		○		○		
58	○			AI演習	Python言語を利用したAIプログラミングを学習する。AIの活用についても学習し、世の中のAI利活用術を身に付け、高度な技術の話題を取り入れられるようにする。	4後	30	2		○		○			○	○
59	○			ネットワーク応用	実際に情報通信機器(ルーターやスイッチ)などの役割を学習し、設定方法、運用、セキュリティ対策、トラブル対策などについて学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
60	○			ネットワーク演習	ネットワーク応用の授業で学んだことを活かし、情報通信機器、サーバなどを用い小規模LAN上で実際にLANの構築演習を行う。	2後	60	2		○		○		○		
61	○			セキュリティ評価演習	セキュリティ対策に必要な理論を学び、実践的な演習を行う。脆弱性とあるべき姿について考え、演習の中から様々な事例や状況のセキュリティ評価を行う。	3前	30	2		○		○		○		○
62	○			プログラム言語Ⅲ	C#言語を利用し、Windowsアプリケーションの作成方法を学ぶ。GUI画面の制作方法を習得し、自身が考える簡単なWindowsアプリケーションの作成を目標とする。	2後	60	2		○		○			○	

63	○			プログラム言語Ⅳ	プログラム言語Ⅲに引続き、C#言語にてWindowsアプリケーションの作成方法を学ぶ。特に当授業ではデータベース連携に重点を置いたアプリケーション開発を行う。	3前	60	2		○		○			○	
64	○			プログラム言語Ⅴ	Pythonを活用した基礎的なプログラム演習を行う。AI演習と連携するため、基本的なライブラリの使い方を学び、自身でPythonを操れるようになることを目標とする。	4前	60	2		○		○		○		
65	○			データベース応用	代表的なリレーショナルデータベース管理システムであるMySQLを使い、インストール、設定から活用・運用管理方法について学ぶ。	1後	60	2		○		○		○		
66	○			サーバ基礎	仮想サーバを使いLinuxのインストール、各種設定の方法、Linuxコマンド、Shellコマンドなどを中心に学ぶ。LinuC レベル1資格試験範囲の知識を身につける。	2前	60	2		○		○		○		
67	○			サーバ演習	Linuxとネットワーク構築を合わせた総合的演習に行う。Linuxのネットワーク環境に接続するための設定とクライアントサーバの管理方法を学習する。	4前	60	2		○		○		○		
68	○			サーバ応用	Linuxサーバの構築演習を行う。Webサーバ、メールサーバ、DNSサーバ、ファイルサーバ、各種サーバのセキュリティ対策についても学ぶ。	2後	60	2		○		○		○		
69	○			制御プログラム基礎	マイコンボードやロボット等を使用して、基礎的な制御理論を通じて制御プログラムを学習する。	3後	60	2		○		○			○	
70	○			制御プログラム応用	制御プログラム基礎の授業に続き演習を行う。特に組込みLinuxを搭載したマイコンボードやロボットを使用した制御プログラムを学ぶ。	4前	60	2		○		○			○	
71	○			モバイルプログラム基礎	Androidアプリケーションの基礎を学習する。実際にAndroidタブレットに実装し、実機テストまで行う。	3後	60	2		○		○		○		
72	○			モバイルプログラム応用	モバイルプログラム基礎の授業に続き演習を行う。特にクラウドサービスなどと連携するAndroidアプリケーションの作成方法などを学ぶ。	4前	60	2		○		○		○		
73	○			システム制作演習	各自が与えられた要件に対し、Java言語を利用し進級課題制作演習を行う。	2前	60	3		○		○		○		○
74	○			インフラ構築演習	各自が与えられた要件を満たすよう、Cisco機器、Linuxサーバを組合わせたインフラシステム構築演習を行う。	3前	60	3		○		○		○		○
75	○			企業課題演習	企業から提示された課題をチームで開発し、納期までに納めるまでの演習を行う。	3後	120	4		○		○		○	○	○
76	○			情報特別講義Ⅰ	各種検定試験に行う対策講座であり、問題演習及び傾向対策を重点的に行う。	1後	120	4	○			○		○	○	
77	○			情報特別講義Ⅱ	各種検定試験に行う対策講座であり、問題演習および傾向対策を重点的に行う。	2通	240	8	○			○		○	○	
78	○			情報特別講義Ⅲ	各種検定試験に行う対策講座であり、問題演習および傾向対策を重点的に行う。	3通	120	4	○			○		○	○	

79	○			情報特別講義Ⅳ	世の中で注目されている技術やサービスについて自ら調べ、未知の情報技術に関する知識を習得する。テーマや技術内容により、企業からの講義も受ける。	4前	30	2	○			○		○	○	○
80	○			卒業制作Ⅰ	プレ卒研の位置づけで作品の制作を行う。班編成をとり、各班でテーマを絞り開発をすすめる。作成された作品は各種コンテストに応募する。	4前	120	3		○		○		○	○	
81	○			卒業制作Ⅱ	在学中に得た技術をフルに使い、各自がテーマを選び研究開発を行う。	4後	240	6		○		○		○	○	
合計					81　科目			3930　単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: (1)必須科目及び選択必修科目において不可がない (2)学年ごとの総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内である (3)学納金が未納でない	1学年の学期区分	2 期
履修方法: 選択必修科目は、1科目・90時間を履修し修得する。	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。